

高尾山富士浅間社鳥居・玉垣改修事業

浄財勧募のお願い

ご信徒の皆様におかれましては、御本尊飯縄大権現様の御加護に浴せられまして、日々ご清適にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

また平素は当山興隆のため、格別の御高配を賜わり、厚く御礼申し上げます。

さて、武州・甲州の乱国渦中の天文年間に、時の領主 北条氏康により、高尾山浅間社が建立されて以来、当山は関東における富士信仰の新たな拠点となりました。平成十九年に再興された、「霊峰富士登拝修行」が昨年で第十箇度を数えるようになり、今なお富士抖擻修行の拠点であり続けております。

しかしながら、建立以来修復を重ねて参りましたが、数多の月日を重ねたことで浅間社周辺の鳥居・玉垣の損傷いちらしく、この度当山貫首により、改修事業が発願されました。

つきましては、全国有縁のご信徒の皆様におかれましては、この浄業に大いなるご理解と格別の御信助を賜りたく、茲に謹んでお願い申し上げます。

合掌

玉垣の御奉納

外側刻銘	小石柱	八十二本	金	十五万円也
内側刻銘	小石柱	百十二本	金	十万円也

寄進者の御芳名は玉垣に刻み、高尾山に末永く留め、貴家の御繁栄を御祈念申し上げます。

*玉垣の奉納数には限りがございますので、満数になり次第締め切らせて頂きます。

*御来山の折の御志納につきましては、御護摩受付所にて承っております。

尚書留で御志納される場合は、必ず「高尾山浅間社改修事業志納金」とお書きください。

御礼と御報告

先々月より御奉納を御願ひ致しておりました、浅間社玉垣の大石柱と中石柱の御奉納につきまして、熱心なる信心のおかげをもちまして満数に達しましたことに対し、御礼と御報告を申し上げます。

尚、数に限りがある為、御奉納を受けることが出来ず、ご信徒様に大変ご迷惑をお掛け致しました事につきまして、心からお詫び申し上げます。

大本山高尾山薬王院

高尾山 季節散歩

暦の言葉
二十四節気
雨水「うすい」

雨水は雪が雨に変わり、春の様な気候に変わる頃であり、今年は二月十八日になります。

この頃に降る雨のおかげで植物は芽吹きはじめ、農作業を始める時期を迎えます。

雪の溶けた庭を見ると、路の藓の姿が見え、春の到来を感じます。

今月の行事
終挿し

二月三日の節分の時期に行われる風習で、家の中へ鬼が侵入することを防ぐため、焼いた鱈の頭を柵の枝に刺し、門口や家の軒下につるします。

鬼(厄)は鱈の臭いを嫌うとされ、柵の棘は鬼が近寄らないようにするという意味があります。

一步一步煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

- 二十七段 やる気を持って
- 二十六段 自分をあまり過信するな
- 二十五段 運が悪いとかすぐに嘆かない

『高尾山健康登山の証』のお勧め

年間約二百八十万人の人々が訪れ、「世界一登山者の多い山」として知られている高尾山。登山者の皆様の励みになれば、との思いから平成十一年から健康登山を始め、今では約五万人の方々が会員となられております。期限はございませんので、御自分のペースでお楽しみ下さい。

また、一冊に付き二十一回スタンプを押すページがあり、終了したことを満行と言います。満行されますとお祝い膳として精進料理の御接待や、健康登山者限定の記念品などと交換もできます。



帳面……………七百円
スタンプ……………百円

健康登山者投稿作品 私の高尾登山

日野市 柴田 利男

昨年の五月十二日、高尾山健康登山百回満行を成満した。還暦の年から始めて、九年三月で二百回目の登山となった。高尾山健康登山を続けていた友人に勧められて始めたが、当時は月に三、四回のペースであった。早朝に登山するようになり、回数が増えていった。山頂で毎回顔を合わせる人達が高尾山の情報山野草のことなどたくさん教えて頂き、そうした出会いが健康登山を続ける原動力となった。百回の満行を成満するまでにはさまざまなことがあった。台風の被害で倒木が道をふさいだ時や大雪で参道が覆われたこともあった。

特に三年前には自分が病気になる、体に痛みがあるなかでストレッチなど十分に準備をして登山した。また、女房が病氣となり、入退院を繰り返して、看病と家事で健康登山が出来ない時期もあった。退院後には一緒に朝食を食べてから家を出発した。健康登山を続けられたのは、毎回家を出るときに笑顔で送り出してくれた妻、いろいろな形で励ましてくれた友人、山道ですれ違う健康登山の仲間達、毎回健康登山の印を押印しながら励ましてくれた受付の人達、参道のお茶屋さんの人達、皆様の励ましを頂きながら、百回満行を成満できました。感謝、感謝です。

健康登山を続けられた感謝の気持ちで二、三ヶ月毎に御護摩修行を行った。飯縄大権現様の御加護で登山が続けられたのだと思っている。これからは頑張りすぎずに頑張りながら、健康登山を続けてゆきたいと考えております。